

二十歳の誓い

私は幼い頃から緊張しやすく赤面症でした。小学5年生の6月、授業中に当てられた簡単な計算問題が解けなくて、緊張で頭が真っ白、どんどん顔は真っ赤になっていくのを感じました。「みんなにどう思われてるんやろ」って思うと、恥ずかしくてたまりませんでした。それ以来、周りの視線に対して恐怖心を持つようになり、この日をきっかけに、学校や塾の教室に入ることができなくなったのです。寒い冬に廊下で先生の話の聞いたり、親と一緒に授業を受けてくれた時期もありました。大学が開いている「こころのクリニック」にも何度か通い、親が先生と話をしている間、大学院生の方が私に前向きになる話をしてくださったこともありました。

小学6年生にあがる初日の朝、私は学校へ行きたいという気持ちと行けない気持ちが交錯し、玄関から外に出ることができませんでした。その時、いつも優しく見守ってくれた父親が突然「今日は何があっても遅れずに登校しなさい」と強い口調で言い、衝撃を受けました。それと同時に、今日行かなければもう行くことはできないと感じました。その日私は泣きながら登校しました。ですが、この日をきっかけに学校に行けるようになり、大きな壁を超えることができたのです。

実は今また壁にぶつかっています。少人数のゼミの授業で意見を求められても、何も言葉が出てこない自分に気づきました。自分の考えが分からないのです。

これまで問題意識を持って、人に相談して意見を求め、自分で答えを見つけてこなかったからだと思います。人との苦手な状況からも、逃げてきました。ですが、これから社会に出て人と深くつながるためには、このような自分を変えなければいけません。

今ここに立っているように、苦手な状況から逃げず、場に慣れることが自分を変える大きな手段ではないかと考えています。問題に直面した時には、人に頼り相談をすることが染み付いてしまっていますが、まずは自分で考えることに努めようと思っています。幼い頃から苦手意識を持っていたことに自ら挑戦するのは難しいと思います。でも少しずつ経験を積み重ねていながら、自分の意見を自分の言葉で言える人になりたいです。このことを私の「二十歳の誓い」とさせていただきます。

令和4年1月10日 新成人代表 森田 咲季